

令和8年度がん検診日程表

検診名	対象年齢	期日	個人負担金	詳細
胃がん検診	40歳以上の男女 ※特定健診と同時実施(胃がん検診のみの受診も可能)	6月5日 (金)	国保 900円	食道、胃、十二指腸の内面をみるための検査です。バリウムを飲み、X線を通して胃の内部などに突起やくぼみなどがなければをみます。 毎年受けることもできますが、厚生労働省は2年に1回の受診を勧めています。
		6月8日 (月)	後期高齢 900円 社保等 1,800円	
		6月9日 (火)	参考: 検診料金 6,050円	
肺がん検診	40歳以上の男女 ※子宮がん・乳がん・骨粗しょう症検診と同時実施	4月22日 (水)	国保 1,300円	ヘリカルCT検査を行います。この検査で、従来は見つけにくかった2cm以下の小さな早期がんも発見できるようになりました。甲状腺や腎臓、心臓など周辺臓器の異常も発見されることがあります。今のところ肺がんCT検査は、厚生労働省の指針に定められた検診とはなっていません。
		10月9日 (金)	後期高齢 1,300円 社保等 2,600円	
		11月19日 (木)	参考: 検診料金 8,800円	
乳がん検診	30歳以上の女性 ※肺がん・子宮がん・骨粗しょう症検診と同時実施	4月22日 (水)	国保・後期高齢 1,100円 社保等 2,300円	乳がんは30年前と比べると罹患率が約3倍に増加しているといわれています。この検診では、マンモグラフィと超音波の2種類の検査を行うことができ、細かく、詳しく乳房の状態を確認することができます。毎年受けることはできますが、厚生労働省は、40歳以上の方が2年に1回受
		10月9日 (金)	JA婦人国保 500円 JA婦人後期 500円	
		11月19日 (木)	JA婦人社保等 1,700円 参考: 検診料金 7,700円	
子宮頸部がん	20歳以上の女性 ※肺がん・乳がん・骨粗しょう症検診と同時実施	4月22日 (水)	JA婦人 700円	子宮頸部の細胞をとり、細胞に異常がないかを確認します。毎年受けることはできますが、厚生労働省は、2年に1回の受診をお勧めしています。
		10月9日 (金)	JA婦人以外 1,300円	
		11月19日 (木)	参考: 検診料金 4,510円	
骨粗しょう症検診	20歳以上の女性 ※肺がん・乳がん・子宮がん検診と同時実施	4月22日 (水)	国保 300円	●骨粗しょう症検診 骨量測定装置の上に足をのせ、超音波をあてて確認します。
		10月9日 (金)	後期高齢 300円 社保等 700円	
		11月19日 (木)	参考: 検診料金 2,200円	

◎ 胃がん検診は、昨年度から、特定健診と同日の3日間のみの実施になります。ご了承ください。

- ◎ がん検診会場は、全て村民体育館を予定しています。
- ◎ 肺がん検診もあらたに乳・子宮頸部がん検診・骨粗しょう症検診と同時に実施しますことから、ご注意ください。
- ◎ 日程や料金に変更する場合があります。申し込みをされた方には、検診日が近づきましたら個別に案内を送付しますので、内容のご確認をお願いします。
- ◎ 検診の申し込みを家族の方が代理で書かれる場合は、必ずご本人の意向を確認してから記入して頂きますよう、お願いします。

令和8年度に総合健診・脳ドックの対象となるのは、令和8年4月1日～令和9年3月31日までに30・33・36・39・42・45・48・51・54・57・60・63・66・69歳になられる方です。対象となる方には、がん検診希望調査票と合わせて、人間ドック事業検査内容についての資料をお送りしていますのでご確認ください。

各種がん検診について

現在、厚生労働省では、がん検診の見直しを進めています。

本来、国が求めるがん検診は、あくまで地域の死亡率の減少のために行われるものであって、個人の死亡リスクを下げる目的ではないと言われています。

推奨しないがん検診がある理由は次のとおりです。

- ・ がん検診で要精密となっても全てががんに繋がるというわけではないが、精密検査になったことで心身の健康を害する可能性がある。
- ・ 検診や精密検査でX線被曝量が多くなれば健康を害する可能性がある。
- ・ がんが発見されたとしても、治療した時としない時で死亡に至る経過に大きな差が生じないケースがある。
- ・ 高齢の場合、がん検診を受けること、がん治療で健康を害する恐れがある。

諸塚村では、国の指針を参考にしつつも、住民の皆さんの健康づくりのために現状の検診体制を継続する予定です。毎年検診を受けたいという方は受けて頂いて構いません。疑問点、不安なことなどありましたら、役場住民福祉課保健師〈65-1119〉までご相談ください。

◎ 国の指針に定められた検診の内容

検診名	検診方法	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診・胃部X線検査又は胃内視鏡検査 (医師2人による判定が必要)	50歳以上 当分の間、胃X線は40歳 以上実施可。	2年に1回 当分の間、胃部X線は 年1回実施可。
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	問診、胸部X線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診、乳房X線検査(マンモグラフィ)	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診、便潜血検査	40歳以上	年1回

◎ 注意事項

- ・ がん検診は、あくまで健康な方が受診するものです。すでに身体の不調を感じる方は、検診を待ったがために悪化する可能性や、不必要にX線被曝量を増やす可能性がありますので、医療機関受診しましょう。
- ・ 年度内に、病院で胃カメラや肺のレントゲンなど検診と同等以上検査を受ける方は、検査が二重になりますので検診は受けなくても結構です。
- ・ がん検診は精密検査までしなければ受ける意味がありません。要精密となった場合に精密検査を受ける意思がない時は、検診を受けることをお勧めできません。



例年、各種がん検診、人間ドック事業に約1千万円の予算を活用し、国保から100万円以上の助成を受け実施しています。村民の皆様が健康に過ごせるよう、貴重な税金を活用して実施していきますので、ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。